水への意識を変えて

三島村立三島片泊学園　八年　永田（ながた）　結夢（ゆめ）

山に降った雨が，学校の脇にある川をサラサラと流れて，海へと旅に出て行きます。大雨が降ると，川は濁り，ゴーゴーと音を立てて恐ろしい勢いで海へと流れ出て行きます。そんな日は決まって，海岸の断壁に無数の滝ができます。このように，私が住んでいる黒島は，日常が水の大切さや，恐さを教えてくれると同時に，水があることがあたりまえではないことに気付かせてくれました。

鹿児島県には，「人と水」に関する歴史や尽力した人物の話が多くあります。江戸時代に，薩摩藩が幕府からの命を受け，多くの財と人命をかけて行った木曽川の治水工事。外国から国を護るために島津斉彬が作らせた関吉の疎水溝。火山灰のやせた土地に水田を作りたいと，生涯をかけて用水路を引いた野井倉甚兵衛。その一つ一つに，水への強く，熱い思いを感じます。そして，その思いを行動

に移し，最後まであきらめずにやりとげたことで，どんなに多くの人が救われたことでしょう。

今，私の目の前には，蛇口をひねれば水が出てくる「水道」があたりまえのように存在します。最近，テレビや新聞でよく取り上げられている話題があります。それは，ＳＤＧｓ「持続可能な開発目標」です。その六番目の目標に「安全な水とトイレを世界中に」というものがあります。そうです。世界では，まだまだ「安全な水」というのが普及していない所が多く，そのために命を落としてしまうという現状があるのです。私たちができることは，いったい何があるのだろうと考えてみましたが，これといった考えがすぐには思いつきませんでした。そこで，もう一度日常生活で，どのように水と関わっているのか振り返ってみました。

黒島には，森林が生い茂り，豊かな水が蓄えられています。山からの水を浄水し，タン

クに溜められたものが，水道管を通って各家庭へと送られていきます。タンクに溜められる量は決まっており，一日に使える水の量には限りがあります。タンクが空になってしまうと断水して大変な事になるからです。島には，お店がないので，水を買うこともできません。船も週四回の定期便なので，給水車が来るまで時間がかかってしまいます。だから自然と，一人一人が水を大切に使っているのです。とても素晴らしいことだと思います。

改めて私たちにできることを考えてみました。まずはやはり，身近に起こっている水問題を見つめ，しっかりと現状を知ることだと思います。断水，水質汚濁などについて知ることにより，「節水ができるよ」「水を汚さないようにするにはこんな方法があるよ」というふうに，様々な考えが出てくることでしょう。しかしそこで，「私一人ががんばったところで，私ぐらいいいでしょ」という考えをもつ人が一人でもいてはいけません。それ

ぞれの場所で，多くの人たちが自分にできることを見つけ，行動に移すことができれば，小さな力もやがて大きな力となっていくことでしょう。そしてこの力は，未来へきれいな水を残すきっかけとなっていくでしょう。

持続可能な世の中を作っていくために，みんなで力を合わせていきましょう。「水の惑星」とよばれるこの地球でも満足に水を使えない人が多く存在する今，満足して使える私たちが，意識を変えなければなりません。貴重な資源を大切に使い，より良い暮らしができる未来へとつなげることが，今を生きる私たちの使命でもあるのです。

人間が生きていくためには，水は不可欠です。世界中の人々があたりまえに「安全な水」が身近にあり，平等に使うことができるように，「できることをこれからもコツコツ続けていこう」と心の中で再確認しながら，私はお風呂の残り湯をバケツにたっぷりくんで，庭に植えてある花の水かけに行きました。